

野洲市民病院整備に関する市民懇談会④ 報告

日時：令和4年6月22日（水） 午後19時～21時4分

場所：コミセンやす

【小池】

皆さんこんばんは。

予定していた時刻となりましたので、野洲市民病院整備に関する市民懇談会を開催させていただきます。

私は、本日司会を務めます、政策調整部次長の小池でございます。よろしくお願いいたします。

本日の市民懇談会は、野洲市民病院整備に関する新たな場所と方向性について、説明をさせていただきます。その後、皆様との意見を交えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

なお開催に当たりまして、記録等の作成上で、写真撮影と発言内容の録音させていただきますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

それでは初めに、開会にあたりまして市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】

皆さん、改めましてこんばんは。野洲市長の栢木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、野洲市民病院整備の市民懇談会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

開会にあたりましてご挨拶を申し上げます。

皆様方には平素から野洲市のまちづくりの推進に格別のご高配を賜っておりますことに対しまして、心からお礼を申し上げます。

さて本日は、本年1月14日に熟考を表明して以降、ご心配をおかけいたしておりました野洲市民病院の、新たに定めた整備場所とその実現に向けた推進方策等をお手元の資料に基づきご説明させていただきます。

その前に少しお時間をいただき、この新たな方策をお示しするまでの経緯と、その都度の私の判断の内容について述べさせていただきます。

その前に皆様にお配りいたしております、この次第でございます。次第に私のメッセージとして書かせていただいておりますので、ご参照いただきますようよろしくお願いいたします。

私は令和2年10月の市長就任において、駅前にはにぎわいを創出し、税収を図る場とし、そこで新病院整備は行わないことを申し上げ、市民の皆様から信任をいただきました。

そして、駅前整備の代替案として掲げていた現地建てかえについて、就任後すぐに公的な検証を行ういただきました。その結果、建築技術的には可能ながら、医療を運営しながら施工すること

は困難というものがありましたことから、やむなく断念をいたしました。そこで立ち止まることなく令和3年5月には三つの候補地をお示しし、駅前 B ブロックで病院を整備することに優位性があると判断をいたしました。

このとき私が B でと判断した最大の根拠は、駅前以外の場所で整備しようとした場合、病院事業債の一括償還や、社会資本整備総合交付金の不交付などで財政的な負担が大きく、昨年今頃、当時の市や病院の資金状況では対応できないとする試算結果を是と判断したことで、そして、市の関係計画等との調整期間に多くの時間を要し、病院の早期整備を望む市民の願いに応えられないと進言されたことや、当時の市議会の状況を見て、B ブロックであれば、市議会に託された駅前を望む民意にも添えると見込んだためでございます。

しかしその後、10月に状況が大きく変動いたしました。市議会議員の改正により、議会の総意に変化が生まれ、本年1月5日には市議会の最大会派から、B ブロックにおける病院整備を速やかに断念し、新たな用地に整理すること等の要望書が提出されるに至りました。

また同じ頃、鋭意検討進めていた駅前 B ブロックでの新病院整備の計画の草案が上がって参りましたが、駐車場がわずか40台で、車寄せも少なく、動線も極端な縦型となってしまうその内容を見て、これでは市民の医療を持続的に担える病院となり得ないのではないかと憂慮するに至りました。

そして、そもそも混雑しがちで、市内各所からの車でのアクセスが困難な駅前に、全ての市民に公平に使いやすくあるべき市民病院を整備できるのか、また、野洲市全体のまち作りの起点というべき駅前南口に、本当に病院が最適な施設なのかと、改めて思いを巡らせるようになり、1月14日、別の選択肢も視野に、市長執行部として熟考すべきと判断したものでございます。

熟考当初の頃は、市民の皆様や議員のご意見、その他、野洲市内の開業医の先生を含む複数の医療関係者の方からもご提案やアドバイスをいただきながら、野洲市の将来に禍根を残さない、最良の選択を目指し、B ブロックも対象に検討、熟慮しておりました。

しかし、3月議会の終盤に、野洲駅前 B ブロックでの病院整備事業の早期再開についての決議案が提出され、3月25日、賛成が7人という少数で、図らずも否決されてしまうことが起きてしまいました。

私はこの B が否決されたという事実を極めて重く受け止め、そして4月に入り、今日お示しする内容で整理するよう、地域医療政策課に指示したものでございます。

今回ご提案申し上げる新病院の整備場所は、野洲市総合体育館、温水プール跡地でございます。この場所は昨年検討した三つのうちの一つの体育館裏と近接し、一部重複する場所ですが、優位点はそのままに、当初問題とされていたいくつかの大きな課題をクリアできる場所であると考えております。

そして何より本市のほぼ中央に位置し、市内各所からの車でのアクセスに優れ、市街化区域に隣接した利便性の高い場所であり、地域病院の優良な整備場所であると考えております。

この提案は、本市のまち作りに関わる政策の大きな変革であり、新病院整備と駅前のにぎわい作りという二つの大きな課題を、健康を基軸としながらも、事業としてはすみ分けて推進しようとするもので、市民の安心と安全を支える中核的医療の確保を確実なものとしつつ、駅前でのにぎわいと税収を生み出す可能性を広げ、希望の持てる持続可能なまちの創造を可能とするものでございます。

本日は、この新たな方策の内容をお聞きいただくことで、これまでご心配いただき、ご懸念いただいていたことを払拭していただけたらと思っております。

長くなりましたが、本日は本計画の実現に向け、皆様方には忌憚のないご質問やご意見を賜りたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

お時間をいただいたことへのお礼と冒頭のご挨拶とさせていただきます。

この後、内容につきましては担当部からご説明申し上げますので、どうぞよろしく願いをいたします。

【小池】

それではお時間いただきまして、事務局を紹介させていただきます。

まず、先ほどご挨拶申し上げました、野洲市長の栢木でございます。

【市長】

どうぞよろしく願いいたします。

【小池】

副市長の佐野でございますのでございます。

【副市長】

佐野でございます。よろしく願いします。

【小池】

健康福祉部政策監の布施でございます

【布施】

病院整備を担当させていただいております、布施と申します。よろしく願いします。

【小池】

同じく、健康福祉部次長の駒井でございます。

【駒井】

同じく病院整備を担当いたしております、駒井と申します。どうぞよろしく願いします。

【小池】

政策調整部長の赤坂でございます。

【赤坂】

赤坂でございます。どうぞよろしく願いいたします。

【小池】

改めまして。私は政策調整部次長の小池でございます。

その他、本日、地域医療政策課および企画調整課の職員3名が出席をしております。名札着用しておりますので、一人一人の紹介は省略をさせていただきます。

それでは市民懇談会に入らせていただきます。お手元の資料、野洲市民病院整備の新たな方策について、地域医療政策課より説明を申し上げます。

【 以下、説明については省略 】

【小池】

それではここからは、皆様方からご意見ご質問等いただければと思います。終了予定時刻は8時半ぐらいを目処に考えております。

順番にお伺いをいたしますので、その場で挙手をいただきましたら、係の者がマイクを持ってきますので、ご発言をお願いします。

なお限られた時間でございますので、ご質問ご意見は、可能な限り今説明をさせていただいた内容から大きくずれることないようにお願いしたいのと、多くの方からご意見いただきたいので、1人1問でお願いします。その後の2問目3問目と回させていただくようにしますので、よろしくご願いいたします。

なお、最後のお願いですけれども、ご発言の前にお住まいの地域とお名前をいただければ幸いにございます。

それではご質問ご意見を承りたいと思います。挙手をお願いいたします。

【市民】

駅前のもろいといいます。

まず質問です。

私、駅前に80年近く住んでおりますが、今回は病院の関係でいろいろ反対の意思です、80年間やってきました。

まずですね、駅前、駅前と言いますと、野洲で病院建たんかったって、私はちょっと不自由していません。隣の近江八幡、守山、栗東、それぞれのところにいつも病院がございます。したがって、病院に対して不自由したということはないんですが。また、駅前の発展がですね、この70年から80年にかけて何にも進んでいない。これが非常に心配でありました。

まだ昔はですね、駅前通りに3軒から4軒、店があったんですけども、それもなくなり。それで、ちょっと賑やかになった、お風呂屋ができました。

それからですね、急に駅前に病院を建てるというような話が来まして、これは大変だということで、このまま病院が出来たら、駅前自体がもう全く来なくなってしまうということで、先頭に立って病院の反対をしてきました。

今回こういう形で、郊外に出ましたけれども、私は非常に喜んでおります。何も心配することございませんので、進めてもらいたいと、いうふうに思っております。

それとですね、もう一点、我々野洲市の市民の税金で病院を建てるんですが、それに医師会が反対してる。野洲守山医師会、野洲の医師会は何とか早く建ててくれという話を聞きますけども、なぜ、野洲に野洲市民の税金で建てる病院をですね、守山医師会が反対するのか。これは非常に、私はもう、憤慨しております。

例えば、ちょっとその辺のところですね。感想ありましたら、挙手を願いたい。病院については、ぜひ進め、進めてもらいたいというふうに思います。

【小池】

ありがとうございます。前半の部分はご意見としていただきまして、後半の部分で。

【市長】

ありがとうございます。

医師会の方からそういう姿勢、反対というのが新聞でも出ておりましたですけども、先般医師会の理事会に出席させていただいて、今のような説明を、医師会の理事会でさせていただきました。

その中の医師会の理事の構成、理事の先生方の構成が、野洲の理事の先生が5名、守山市内の開業医の先生の理事が10名というような構成だったというふうに思ってるんですけども、その中で確かに守山で開業しておられる先生方からは厳しいご意見がたくさんあったんですけども、野洲で開業しておられる先生方からは、この場所、要するに今提案させていただいている場所にも一定の合理性はあるというご意見が出たり、1日も早く整備をしてほしいと、場所はここじゃなかったらあかんとかじゃなくして、1日も早く整備をしてほしいというようなご意見がありましたので、私は総意ではないというふうに感じております。

以上でございます。

【市民】

四ツ谷の■■■■と申します。

まず、栢木市長が公約で半額建替えて、現地半額建替えてということで、評価委員会を開いて、ちゃんと院長先生、地域の話、そういうので駄目だったんですけども、Bブロック、そして今回のこの体育館横ってようなのは、全然、評価委員会っていいのか、そういうのを通さないで、ただポンと出してきはって、それでどうですかなんて言われても。やっぱり専門家の意見、地域の

人の意見、そういう人たちの意見も、やっぱり評価委員会でちゃんと決まってから皆さんに出して欲しかったと思います。

条例で決められたAブロックっていうのは、私達、私は参加してきました。地域の住民として参加して、意見も言わせてもらいながら進めてきた条例なんです。それなのに、地域や、野洲の地域の人の話を聞かないで、専門家の意見、直に院長先生とか、そういう医療関係の人の、地域医療に関係した、野洲の地域医療に関係した人の話を聞かないで、こういう話を進めていくようにきたことは、私はもう最初のコミセンしのはらのときから、もうこんなもんボイコットしたいと思っていましたが、今日はコミセンやすということで、来さしてもらいました。絶対、駅前建てて欲しいと思います。

駅前に野洲は、野洲駅の新しい病院を見て、ああ野洲っていうのは、福祉、地域医療、そういうのをちゃんとやっているところだっていうのを他の町の人にも見てもらいたいと思って、私たちは今まで、地域医療の、今までそういうのに頑張ってきた、運動を進めてまいりました。だから、高圧線や、川のすぐ近くっていうような、病院には不適當な場所を何で選ぶのかしら。またこれも、Bブロック、あれだけ医師会にやりますって言ってはった、市長のあれがコロッと変わって、今度は、じゃいかんよと。何でこんなことになるでしょう。また、これもあるっていうことになるんじゃないでしょうか？私は、もうあんまりコロコロ変わって欲しくないと思います。

半額、現地半額建替えていう、あれが駄目になったときに、本当の、条例通りのAブロックに戻るべきだと思います。

それができるはずっていうことで、何回も今までにやってきた。あの、やってきて。それがやっぱり、商工会の反対とか、そういうので駄目になってきてるんです。駅前を、本当ににぎわいのある町にするのには、ああ、野洲ってこういうところだっていう、そういう病院が建てて欲しいなと思います。

駅前は、交通の便がいいところです。そういうところに、コミュニティバスが集まる、そういう病院を建ててほしいと思います。

よろしくをお願いします。

【小池】

はい、ありがとうございます。大きくはあれですね、進め方の問題ですよ。

【駒井】

ありがとうございました。

順番に、事務的なところは、私の方からお答えをさせていただきたいと思います。

まず評価委員会を通さずにこの考えを市民に出している、ということをおっしゃっておられますが、今回の市民懇談会は、あくまでも熟考していたことを、市民の方がどないなってるんかのご心配をいただきましたので、取り急ぎですね、その熟考した内容として、今回お伝えしているとい

うことをご理解いただきたいと思います。■■■さんおっしゃる評価委員会につきましては、最初の説明でも申し上げましたけども、この6月28日に予算が通りましたら、基本計画という計画を作らせていただきます。で、この基本計画については、医療の内容であるとか、収支であるとか、もっと細かいことを書く計画ですので、その内容を、今回の場所とともに評価委員会で評価いただこうと考えております。そしてここでご評価をいただければ、次の事業のフェーズに進んでいくべく、9月議会に関係予算を提出させていただきたいという考えでございます。

ちょっと誤解いただいているのは、決して唐突に決めたからということで説明しているのではなくて、この市民懇談会を含めて、今、市民の皆様、議会の皆様にご説明をさせていただいておりますので、熟考をしていた内容を、取り急ぎ、取り急ぎお伝えをしているということで、ご理解いただきたいと思います。それがまず一点でございます。

それと病院の先生方の意見を聞いていくべきということ、それは当然でございます。これにつきましては、この工程表でいいますと、ここですね、基本設計の段階です。これは医療スタッフの方と一緒にないと作れません。病院の設計図、設計ができません。例えばドアをどっちに付けるんやとか、ここの手洗いは自動水洗なのか、など。様々なことですね。部屋の配置はどうするんや、どっから入っていくんや、オペ室はどうするんやなど、様々なことは全部病院の関係者のご意見を賜らないとできませんので、そういったことを基本設計という工程のところでしっかり聞いていきます。これは当然でございますので、ご了解いただきたいと思います。

あともう一つ、コミバスにつきましては、今現在は、野洲病院がここにあるということで、今の野洲病院に全部の路線が入るようになってるんですけども、新築後については新しい病院に可能な限り全路線が集結できるように組み直しをしていきたいと考えております。これは、担当課との調整をこれから始めるところでございますけれども、見込みとしては可能なことと考えております。

あと一つ、もう一つおっしゃった、駅前に病院があることで、他の町の人に、野洲市の政策の方針を見ていただけるというふうにおっしゃいましたけれど。これについては、そもそも病院を駅前に建てる目的は元来そういったことでなかったと。病院というのは、他市にアピールするためのものではございません。ただ、今回の新しい場所でも、しっかりとした市民病院をつくれればですね、そのときは他市の市民から、野洲市は羨望される町になるのではなからうか、というふうにご考えるところでございます。

以上でございます。

【小池】

ちょっと、いいですか、大体なことでございますので、ご了解いただきたいと思います。

【市民】

駅前の■■■といます。

一つはですね、先ほど医師会の件がありました。で、やっぱり良い病院ということになると、やっぱり医師とね、やっぱり建屋の話は、今、かなりありましたけど。やっぱり医師のね、良い医師を来ていただいて、病院は成り立つと思ってるわけです。

だから医師会は、6月10日の新聞にもありましたけど、裏切られたというようなことを言ってます。で、やっぱり今後ね、そういうことに関してちゃんとその医師会との関係を修復できるかどうか。

それともう一つは、公共バスを使って5%って言われましたけど、ここの資料に、24ページの資料を見ればですね、タクシーだとか、自転車だとか、全部電車とか公共、公共バスは5%、自転車あるいは歩いては19%、タクシーが14%。この方たちがね、公共バスを使うようなことになるのか。今はタクシーが使える方がね、同じような形で利用せんといかんのか。やっぱりその40%ぐらいの方がね、どうなるのかということ、ちゃんとやっぱり検証する必要があると思うんです。

それと、先ほど言われましたけど、もしも車で通う、こうなりますとね、守山にもありますよね、病院は。で、今度バイパスが出来る、8号線バイパスができると、栗東の病院があります。だからそういう病院と、我々の病院ですね、野洲病院、どういうその棲み分けをするようにもっていくのか。

今、野洲のね病院は、滋賀医大だとか、そういうところの関係もいい関係だと僕は思ってるわけです。例えば精密検査するんだったら、滋賀医大に行って検査してもらおうとか。滋賀医大の先生が来て手術するだとか。そういうことがあるから、やっぱり医師のね、やっぱりそういう良い医師と、言い医師関係のね、関係はちゃんとやっぱり修復すべき。修復するには何が必要かということをもっと深く考えて、やっぱり市民に報告すべきだと僕は思います。

【小池】

ありがとうございます。

医師会との関係と、あと交通手段の関係ですね。

【駒井】

ありがとうございます。可能な範囲でお答え申し上げたいと思います。

まず医師会さんとは、市は引き続きご理解いただけるように、全力を尽くして説明の機会を設けていただき、やっていきたいなというふうに考えておるところでございます。これは当然のことかと思えます。

あと、ちょっとおっしゃったことで、医師の確保ということですが、確かに地域の診療所のドクターで非常勤で野洲病院にお越しただいてる方も、一部おられはします。が、基本的には、野洲病院クラスの病院になりますと、医師確保というのは医師会ではなく、医局との関係になってきます、大学ですね。ここの関係をいかに構築していくかということが非常に重要でございまして。私共は新しい病院に目掛けて、コネクションでございませうけども強固なものを作りたいと考えておりますし、それに関わっては一定の確証を得て進めているところでございます。

もう一点ございますけども、今確かに■■■さんがおっしゃたように、2割ぐらいの方は徒歩で来られております。この徒歩の方の持ち得ておられる交通手段は、まだ確認できてないですが、この徒歩で来られる方の年齢層をちょっと確認してみたんです。そしたら、歩いてこられる方ですけど7割ぐらいが確か75歳以下の前期高齢者だったんですね。その歳の人だから通常考えますと、まだお車に乗っておられる年齢の方ではないかと。この徒歩の方にも車に乗っている方もたくさんおられるのではないかと。野洲学区の自動車の保有率が他の地域よりも極端に低いということはおそらくございませんので、家族などに乗せていただける人を含めると、今は確かに近いから歩いてこられてるでしょうけれども、新しい場所になったら自動車でお越しいただける方も相当数おられるんじゃないかなというふうに思っております。

加えて、申し上げますように野洲駅からシャトルバスを運行する予定をいたしてございますので、今まで病院があったこの地域の方にも、できるだけ不便な思いをしていただかないように、気をつけていきたいというふうに考えているところでございますので、ご了解をいただきたい。

あともう一つ、他市の病院との棲み分けのことですが、守山の市民病院、これは守山市内の中核的病院でございますので、基本的には守山市内の診療所からの紹介などで、予約診療で行っておられる方が大半でございます。

もう一つ、済生会病院。ここは滋賀医大もそう、近江八幡市立もそうですけれども、紹介なしで行くと特定療養費というものを、初診で払わなくちゃならない。1回5,000円とかですよ、ご存知いただいているかとも思いますけども。野洲病院は199床でございますので、これがいない病院でございます。そういったところから、外来に関して申し上げますと、他のところとはあの場所でも干渉しない。

と申しますより、野洲病院の医療の、また収益の中心は入院でございます。入院に関しては、これは機能分化が非常に重要でございますして、先ほど冒頭で申し上げましたように、大きな病院からの病病連携、大きな病院から自宅に戻るまでの回復期医療を担うとかいう機能が非常に重要になってまいります。またケガでの入院にしましても、二次的な救急、あるいは一般の急性期、こういった形で、病院によって機能を分けていくのが今日でございますので、このあたりはうまく棲み分けしておりますし、そのように県の医療政策においても仕組まねがなされているというところでございますので、近いからとかいうことで干渉したりするものではないとご理解いただきたいと思っております。

以上でございます。

【市民】

駅前■■■と申します。あの、駅前の整備の話、10月以降にするということなんですけども、実際のところ、その病院がない状態で何をしようとしてはるのかってところ。何かお考えあるんでしょうか？私個人的にはね、駅前に病院があるべきだと思ってたんですけども。それはなぜかという、もう病院は人を必ず呼べる施設であると。駅前に人を呼んでくるため、一番大きな目玉になるというふうに思ってたんですね。要は、例えば商業施設を持って来る、ちょっと野洲では、

現状のデカイ商業施設はもうちょっと難しい。かといって、例えばマンションを建てるとすると、今度はマンションの人間しか駅前に居ないわけで。そういう意味で、基本的に昼間いませんから、にぎわいは絶対出てこないわけですよ。ましてや、ちょっと大規模だということで、例えば200戸ぐらいのマンションだったとしても、そこで固定資産税毎月10万あったとしても2,000万円ですから、コミュニティバス2路線で、それでもうなくなってしまうよね。あれね、1路線で、大体1,000万円から2,000万円かかりますからね。そう考えると、駅前に何を呼んでくるんだらうということをはっきりさせないのに、病院だけとりあえずなくなりました、さあ、駅前どうしようっていう話には、ちょっと乗れんのかなあと。ましてや、今度ホールをなくすという話ですけども、それも含めて、じゃあ何を狙ってるのかというところ、いかがなんでしょうかね。

ちなみに私、毎朝、大阪まで電車乗ってますけども、例えば最近、吹田はね、岸部の駅前再開発しまして、駅前に国立循環器医療センターなど、新病院を建てましたよね。あれも、おそらく吹田の市民の方がわざわざJR乗って、病院に来るわけないと思うんですよ。だけど、駅前に病院があることによって、駅前に人を呼んでくると。実際阪急バスなんかも岸部の北口に路線を持っている。

そういう意味で、人を呼ぶための施設を何にするのかっていうのを先に考えておかないと、しんどいんちゃうかなと、私個人的には思います。

とりあえず、長くなるので一回切ります。

以上です。

【赤坂】

ただいまのご質問でございますけれども、病院の話は一つ提案させてもらってるんですけども、その後のこと、あるいは今までの病院以外の駅前の整備のことについてのご質問というふうにご理解しております。

駅前につきましては、病院を整備を含めて、野洲幼稚園から野洲のロータリーまでですね、この範囲は全て公の施設、市有地の施設になっております。全体で3万2,000㎡ございます。この3万2,000㎡のこの市有地を、今後どのように整備しましょうかということ、平成24年から27年3月までかかりまして、このブロックにはこのような整備をしましょうというような形で計画の方を作らせていただきました。その中に、Aブロックという、一番ロータリーに近いところが病院ということで、当初計画が回っておりました。

それで、今の市長の方が選挙公約いたしまして、駅前の病院はやめます、駅前はいわゆる賑わいそれから税収を確保するために、駅前にはそのような形で整備をすすめます。ということで、選挙の方が捉えまして、そこから公約に基づいて整理をしていくと。で、実際それをどうするかという具体的な話でございますけれども、いわゆる複合商業施設。テナントがいっぱい、お店が入るといっても、市が持つ部分でいきますと、例えば観光案内所とか、そういうものとか、子育ての機能とか、いろんなその市の機能を含んで、プラス民間のいろんなお店も当然ありますけれども、そう

というようなものを市が公の施設として整備するのではなく、民間さんに整理をしてください、提案を求めます。そのような形で駅前を整理しようという考えを現在持っています。

それで、今の病院の、年を明けてからですね、熟考という形になっておるんですが。それまで、年が明けるまでですね、いわゆる、交番の裏手のところからロータリーにくっついておりますAブロック、元々の病院があった場所、この二つの土地を使いまして、民間さんの提案を受ける計画を進めております。

その中で病院の整備の場所、今回提案する一つ手前が熟考ということで、一旦立ち止まってそこを検討しますという話になりましたので、Bブロックと言われる二つ目の病院がどうなるかということによって、その土地が空く、空かないということもございますので。それをいったん見定める形で、交番のところと駅のロータリーに近いところのAブロック、この二つの考えを一旦そこで立ち止まって。こちらの方の先ほどから病院の提案、これが体育館のプール跡地で今後予算を認めていただいて、詳しい調査をして、そこでいけますよということを、議会市民さんに説明して了解をいただいて。駅前から病院がなくなるとなったときには、AとCと言われる部分にBをくっつけて広めた意味合いを持った上で、民間の企業からの提案を求めるための手続きをしていくと。そのような計画を持っています。そのためにBを含めたそこで計画をやるのに、再度議会の方に、9月の議会に、それに必要なお金を上程させていただく予定をしている。

■様おっしゃった具体的にというふうにつきましては、市が、このお店もできます、あのお店も出来ますではなく、民間さんが今の野洲の駅前で、この土地の規模で、どんなものだったら採算が取れ、いけるのかということ民間さんが提案を、そのそれに市がいくつもある提案の中で一番市が有利に、或いは市民さんの意向に一番近いものを、市が選んで、その業者さんの整備の方を進めるということに市の方も検討させていただくと、そのような見込みの計画を求めるところでございます。

【小池】

すいません順番でね、先ほど前の方。

【市民】

野洲学区の■といます。

時間も限られてますので、一点だけ説明がなかったもので、取りたいと思います。資料37ページ。6月補正予算予定というところに、病院整備事業顧問等費。金額出てませんが、その下、3番目、病院事業管理者報酬、これが挙がっております。

これは、今病院長が、全て病院の運営を専任でしているのにも関わらず、病院管理者を置く、報酬までしてする必要があるのか、野洲ぐらゐの病院で。そんな必要ないと思います。私の意見です。何を考えてはるのか知りませんが。

要するに節約をしていかなあかんようなこの時代に、金を出すことばかり考えてていうのは、全く無駄やというふうに思います。

それと併せて関連してるから言いますけど、周辺の公立病院、近江八幡の医療センター、草津医療センター、先ほども出てましたけど高島の市民病院、これ、それぞれに医療管理者を置いてます。置いてますけれど、病院長が兼務してます。

そんなことご存知だと思いますけど、それなんで、野洲だけわざわざ別に管理者報酬を置くということは、誰かがこの病院管理者を置くということが前提になって議案を作っておられるということにしか理解できません。

なぜ院長だけでできないんですか。今までそれずっとやってきて、新たに病院管理者を設置する必要なんて、全然ありません。

病院管理者を置いて、病院管理者を置くということは、将来この独立行政法人にしていこうというようにこともこんな頭の方に出てますけど、独立行政法人か、に、移行していこうということが出てますけど。独立行政法人に移行して、理事長置いて、病院長置いて、これ大津の市民病院やないですか。中で混乱して、喧嘩して、そして医者が20人も辞めて、こういう現状を野洲でも作ろうというふうに考えてるんですか。

予測で私はこんなこと言うつもりはありませんけど、そういうようなことはして欲しくない。野洲の病院の中で、医者が喧嘩して、そして、もう病院を辞めていく、病院が成り立たんようになっていく。そんなことを考えておられるんですか。そんな想定されておらないと思いますけど。もうちょっとやっぱり…。

連携というか、先ほど、医師会と喧嘩したらあかんとか言ってますけど、医師会よりも、医者が来るのは大学病院の医局から派遣されてくるんじゃないですか。開業医の先生なんです。自分らが病院経営するだけの話であって、医師を派遣するとか派遣しないとかに、タッチしておられるわけや何もないわけですよ。皆さん、そんなこといちいち言わなくてもよくご存知のはずなんですけど、私はそのように思います。

それから最後にもう一点。先ほど当初、Aブロックに病院を建てる。これが、市長選で流れた。その後、あそこを文化ゾーンにするという、この計画書には出てますよね。文化ゾーンにするに出てるんですよ、そういう説明されたやないですか。文化ゾーンなら、こないだの野洲に文化ホール、小劇場、中主にさざなみホール、この三つがあると、この三つもいらん。どっかに、一つに集約すると。その集約するというのが、さざなみホールということで決めてるというふうに、担当部長が言うてるじゃないですか。説明があり。ということは、野洲の文化ホール、小劇場、これを閉館にして解体してしまう、更地にしてしまうということを、公の場で言うてるんですよ。そんなもん知らんで済みますかい、ようけようけ来てんのに。だから今の文化ゾーンで、野洲の駅前のにぎわいのまちにしようだの全く逆行したことを言っておられるのと等しいと、私は納得いかない。

市のそれぞれの部署があるんでしょうけど、この行政当局のこの連携というのか、一貫性のない、取り組みをしておられるというのが、本当に情けないと思います。

【小池】

はい、大きく二つですね、あの事業管理者等の体制の話と、駅前整備の話ですね、方向性のね。

【駒井】

ありがとうございます。私の方から回答させていただきます。

まず、顧問の設置については、管理者を置く理由にも一定通じるところがあるんですけども、今、野洲病院は申し上げましたような世紀の大事業、新築建て替え移転という大事業に取り組むことになってございます。これには、まず顧問というスペシャリストがやはり必要と認識してございます。そういったことから、本当にスペシャリストの方を配置する前提で今考えております。7月1日からで。

管理者なんですけども、■■■■さんおっしゃったところで、まず高島は管理者と病院長が別、近江八幡市立も別におられますので、そこは訂正します。

で、ですね、病院管理者を別に置くかあるいは病院長が兼務するかということは、病院の規模で定まるものでは実はないんですよ。事例で申し上げますと、高島市民病院の管理者の方がご挨拶のなかで申されているのが、病院の経営と共に私は地域医療をガバナンスしたい、ということをおっしゃっておられます。野洲市も同じだと思うんですね。市民病院がある以上は、地域の医療をガバナンスする専門家が絶対必要でございます。これは管理者の仕事としてはマストではないんですけども、病院の院内の医療については病院長が分担し、地域の医療、地域医療政策と合わせた市民病院の経営というところについては、病院の経営と合わせてですね、管理者が統治していく、統治という言葉悪いですけども、マネジメントしていく、というのが非常に理想的な形ではないかなというように考えております。一応そういう考え方をしてございます。

それと病院長が全てをやっておられるというふうにおっしゃいましたけれども、実は病院長さんは全てをやっていただいているんじゃないかと、管理者の権限は、今、市長がやってる。ですから、病院長さんは今でも医療の総責任の傍らで、大変な病院管理の仕事についてのいろんな形での進言を市長にしながらか、そして市長は責任を持ってやっておられる。病院事業管理者を本則上は置く、これは公営企業法というルールで決まってるんです。管理者を特に置かずに、首長、市長が兼務することもできますし今まではそれでやってきました。でも、この首長が兼務をする形でやってる病院、自治体立病院というのは、滋賀県内で野洲市民病院だけだなんです。それほどちょっとアクロバティックなことを今までやってきたということで、ご理解いただきたい。

なおかつ、今新しい病院を建てるという世紀の大事業を控えている。我々野洲市民病院としては、ぜひともこれは管理者を置いて戦略的に構築をしていく必要が、これからあるという認識で、絶対に必要という認識で、今回、予算をあげさせていただいて、条例改正をさせていただいております。

もう1個のことは、おっしゃった通りでございます。医師の確保には、滋賀医大、大学の医局との連携、これが非常に重要でございます。そういった点から考えても、管理者に医師の資格の方を

置くということは、非常に有効なことでございます。これについては、もう少しして、実際のどういった方が管理者に就任されたかということをご覧いただいたら、私が今申し上げてることを、後からご納得いただけるかなとも思いますけれども。医師確保ということを進めていくためにも、今回の事業管理者の設置というのは、誠に有効なことと考えているところでございます。

あともう一点でございますけれども、文化ゾーンのことをおっしゃったと思いますけども、確かにこの資料に書いてございます。そこの部分につきましては、今の都市計画マスタープランで、既に非住居系の開発で何らかの形で開発していこうという方向性が示されております。

旧野洲町のときにですね、あの辺りを公園にしていこうという、そういう構想がございました。もうそれを別に活かしていくつもりではないんですけれども、病院が新しい病院ができた、体育館もある、そうなったら、あの辺り、また子どもが増えていく、市街地が広がっていくべき場所でございます。そうなれば近隣市にあるような、家族で楽しめるような公園整備なんかをしていくことも有効だなという考え方で、文化ゾーンというような考え方を申し上げておるということで…。え、あ、駅前。すいません、ちょっと私勘違いして今答弁申して申し訳なかったです。

【小池】

文化ゾーンって、あれですよ。駅前のエリアのことを言うてはりますよね。

【駒井】

失礼しました。そしたら、もう今の話はちょっと取り消しますけど。新しい病院の前の辺りの部分に、文化ゾーンのこともちょっと記述してましたので、そこと勘違いして、申し上げてしまいました。

もう一点、大津市病院の理事長と病院長の対立。これにつきましては、実は私前理事長である片岡慶尚先生と懇意にしていますので、いろいろ聞いてございます。いろいろ聞いている内容は申し上げられませんが、はっきり特殊事情です。それだけ申し上げております。

以上でございます。

【赤坂】

それでは残りの質問ですね。

多分、ご質問は、今画面に映っておりますこの辺をですね、左上の線路沿いのところですね。ここが文化スポーツ施設と書いてる、このことがおっしゃってると思うんですが。実際、先ほど私説明の中で、平成24年から計画作りをしたというお話したと思うんですが、その当時、いろんな関係機関もそうですし、市内の団体活動されてる方々、あるいは市民代表として公募されて参加いただいた方、その関係者の皆様のご意見をお聞きして、どういう機能が駅前に必要ですかというときにつきましては、このような形で、病院とかですね、あるいは市民交流関係の施設とか、あるいは文化スポーツ交流施設が、駅前で、市民として必要ですよという、ご意見を取りまとめて、このよ

うな形で、その当時構想の方は決めさせていただきました。現在、構想立てたまま約7年が経っているわけですが、そのような中で、例えば病院については、今こういうような議論をさせていただいています。

それから、文化スポーツ、文化スポーツのこの施設につきましても、これで確定というよりも、この全体の中から病院というその機能がなくなると同時にですね、全体のこの黄色く塗っている部分全体を駅前の市有地でございますので、どのような機能が必要ですかと、今の時点でですね、再度その市民の方々の意見を聞く一つの機会として、先ほど申し上げました、再度この検討するために、9月にまたお金の方を議会の方に上げて、検討する会を立ち上げますという部分で、ここの検討の方をさせていただく予定をしております。その時に、従前いろんな意見があった中で、同等のですね、この部分についてやっぱりこういうような機能がいますということでもとまるのか、ニーズ、そういうようなことから違うことになっていくのか。そこについては、これから皆さんの意見を聞いて決めさせていただく。いうことでございます。

あと、文化施設の関係ですね、文化ホール、それからさざなみ、そちらの方のお話のことをおっしゃったわけなんですけど、機能につきましても、建ててからだいぶ期間が長く、それで老朽化が非常に激しいなど。このまま続けてそこで利用するというのは、非常に厳しい状態でございますので、現在建てあるその施設、施設を全部一斉に機能をなくすというだけできませんので、その中でどの機能を維持していくのがいいのかという一つの考え方で、さざなみという説明を一旦させていただきます。

それとは別に、駅前の中で、どのような機能が必要かというのを再度、この秋の方から構想の見直しというのを、関係機関団体さん、あるいは市民の代表さんを入れて、検討させていただきますので。今ここでこれが作るという24年のやつが、若干時間の経過とともに、市民さんのニーズで、変わりつつあるその部分を再度確認をしながら、構想という形で駅前の、何が必要かというのを定めていくということ、これからさせていただくということでございます。

【小池】

すいません、だいぶ時間が押してまいりました。後ろの方は、はい。

【市民】

野洲の■■■■でございます。

この病院の件に関しましては長いことを検討されまして、野洲市民は非常に皆、関心が強い。今後もそうなんだと思うんですが、思います。

今回、1月14日に熟考を表明して、急遽、案を立てられました。市としては自信を持って、これ進めていこうとされているんだというふうに考えてます。

私思うに、前回、Aブロックで病院を建てるかどうかということの住民投票をしました。その結果、50%に満たないということで、多額の費用をかけた住民投票の結果がどうなったかすら、誰も

わかないような状態になってます。で、これちょっと私、何この50%って何かなとちょっと調べてみたら、野洲市の住民投票の条例に定めてあるというふうに認識しました。

で、思うんですけど、そこで住民投票って何かなということでもちょっといろいろ考えてみたんですけども、その中にも書いてた中に、50%というのは、別に固定したもんじゃなくて。一般的には半数ということで出されるところが多いと。ただ、特に市民に非常に重要なものであれば、その投票率に関わらず、公表するというのもやってる自治体もありますよ、ということですね。

で、今回、私言いたいのは、この市が自信を持ってすすめられたこの案と、前回どうなったかわかんないAブロックの案とを、二者択一の住民投票にかけてみたら、市民の皆さんの意見、考えがよりよくわかるんじゃないか、というふうに考えます。これは私の、一個人の考え方です。

そして、その投票率に関わらず公表すると、これには条例の改正が必要かと思うんですけども、そういう手続きを踏んでいただけるとありがたいんですが、その点どうでしょうか？

【小池】

ご提案ですね。

【駒井】

ありがとうございます。

最終的には政治的判断となるわけでございますので、私の方からは、まず事務的なことを申し上げさせていただきます。

基本的には住民投票は、野洲市のまちづくり基本条例の中に実施できることが定まっております。確かちょっと4年間5年前ぐらいだったと思いますけども、一度実施されてございます。

ただ、あくまでも日本は議会制民主主義の国でございます。野洲市も議会制民主主義の町でございますから、その議会制民主主義を補完するための直接民主主義の手段であるということで整理されてございます。

で、当時もご承知いただいたように、全国ネットのニュースになるぐらい、ある程度、稀なことだったということでございますので、本来あるべき、私どもが今考えるところは、議会制民主主義で、市議会委員の方にしっかりと民意を汲み取っていただきお決めいただくと。これが本来の形であるということでございます。

5年前に50%にいかなかったということも、最初から50%超えないと開けませんよということも申し上げた上で住民投票に入ってるわけでございますが、それでも50%いかなかった。いかなかったという事実も、野洲市民の方の、4年5年前のではありませんけれども、野洲市民の大きな民意であったというように考えるところでございます。今回も同じように、住民投票については、今の所は実施する考え方は執行部はないということで、ご了解いただきたいと思います。

【市民】

すいません、いろいろ説明を受けていただきまして、していただきまして。野洲の■■■と申します。本当にその場所で大丈夫なんですかっていうのが疑問なんです。

高圧線の問題なんですけれども、やっぱりそれは、数字的には大丈夫やでっていうふうなことをご説明いただいたと思うんですけれども、そこで働かれる先生方が、ずっとそこにおられるんです。そんな高圧線も通ってるところで、精神的にもすごくダメージを受けられると思うんです。ホンマに大丈夫なんですかっていうことをお伺いしたいのと。

そこは、川が後ろに流れているんです。湿地帯なんです。それで、どんどんどんん沼地みたいなところで杭を打っても、今すごく地震も多いですし。そして、線状帯ですから、雨もたくさん降ります。そんなところでね、本当に大丈夫なんですかっていうのを思います。

ホンマにそこは、危ない場所なんですよって、今までそう仰ってたやないですか。それを今さら。こうするから大丈夫なんですと、本当に大丈夫なんですかっていうのと。

交通なんですけれども、あそこ道路ね、こっち信号なんです。こっち信号なんです。出ようと思うても、この間も私、1回か2回行ってらるんですけれども、自動車が結構来るんですよ、出られないんです。本当に、本当に出られないんです。そんなところに本当に来られるんですか。

本当に大丈夫なんですか、っていうことをお伺いいたします。

【駒井】

ありがとうございます。

まず、高圧線の問題ですが、仰っていただいている通り、様々なエビデンス、見解が世界中にございます。正直申し上げまして、100%なのかどうかということは誰もわからないのが現実でございます。ただ、今、私ども申し上げましたのが国際基準でございます。どこかに掘り所を設けないと、日本中いろんなところに高圧線が走っている中で、どこまでリスクをコストに変えていくかという問題になるんです。我々は一般的に、一般的に言われている国際基準というものに掘り所を設ける。当然、行政としては当然と考えます。

あと湿地帯とおっしゃってます。ご心配が解けてないなあというふうに思うんですけれども、これにつきましては、土質調査を行いまして、間違いなくしっかりと調べます。そして、必要な工法で地盤改良を行います。ただ申し上げたいことは、支持層はあの辺り一帯に広く水平分布してるということでございます。ですから、地震で建物がガラガラと崩れていくとか、建物が傾くとか、それはない。これは技術的に申し上げたいということですので、安心いただきたいと思えます。

あと川なんですけれども、この中ノ池川という川でございますけれども、今の滋賀県の河川の計画ではそうなんですけれども、数百年に一度というレベルで堤が作られております、ということと、今も下流から順々に浚渫をやっております。比較的、比較的というか安心な川の部類であることに間違いはないというように認識しております。

あと…、ごめんなさい、信号の問題ですけれども、時間帯によってはある程度お待ちいただくかわかりませんが、ここら辺り、市役所から出るときもなかなか出にくいですよ。駅前より

は、アクセス、あるいはお車の運転は比較的簡単な場所ではないかなというふうに考えております。それほど大きな支障ではないのではないかなというような感じでございます。

以上でございます。

【市民】

行畑の■■■です。

まず私も考えていますのは、駅前にはにぎわいのある税収を見込める、もっと言えば、がめつく金を稼いで市に入ると、そういうような場所にしていきたい。

で、病院がプールの跡に行くということで、その当時、いろいろと喋ってますと、上に高圧線が通つとるやないかとか、地盤は軟弱なこと違うのかとかね。体育館があるから体育の来る人と、いろいろと車が来れちゃうんちゃうかとかね、いろいろありまして、私もそこら辺、疑問に思っていましたけども、今日、説明聞きますと、全く大丈夫であると、こういうことですので。ぜひとも市長を先頭にしまして、聞いてますと野洲の市議員さん、優秀な方ばかりだなということを聞いてますので、その辺の方と一生懸命、一致団結して、駅前を豊かな素晴らしい場所にしていただけると。何とかして、向こうで病院を進めていただきたいと、切に願っております。頑張ってくださいと思います。

【小池】

すいません。今ね、お2人、手を挙げられておりますので…。

【市民】

時間かかりません。

【小池】

はい、では2回目、質問お願いします。

【市民】

先ほど当局の方が、文化施設の今後のあり方について説明がありました。

非常にわかりやすい説明で、納得もできるし、よくわかったんですけど。ところが、この三つの施設を統合したいという説明会が2会場に分かれてされた。その時には、担当部長だとか、4人ぐらい来ておられました。

そのときに、責任ある立場の方ですよ、それは野洲の文化ホールを閉鎖、解体。文化小劇場も閉鎖、解体。さざなみホールだけ残すと。皆、修繕費がかかって老朽化してるというのが理由です。なんでもう、40年経ったからいうて、補修して使おうという気を起こさないのか。野洲からもう、文化なんか何もなくてしもうたらそれでええという、そういう考え方をお持ちなんですか。

先人の、町長さん。これを作られたのは宇野町長やと。野洲に文化が必要ということで、文化を、文化のためのホールを造られた。そういうような経過を、皆さんご存知あるかないか知りませんが、つぶしてしまうたらええというもんやないやないですか。

【市民】

病院、病院関係の話ですよ。

【市民】

いや、あの、さっきは…。

【市民】

病院関係ですよ。病院関係の話ですよ。

【市民】

いや、病院関係は、あそこに文化の、あの、図面が出てるから、その説明されたから質問しているわけであって…。だから、そういう説明されなかったら、こんなこと聞きませんよ。そういう説明、文化ゾーンだとかいう説明をそちらの方がされたから、私は言ってるんです。だったら初めから、いらんことを言わなかったらいいですよ。

【赤坂】

ただいまのご質問でございますけれども、先ほど私説明させていただいたのは、文化ホールの、現在ある文化ホールの全て老朽化しておりますので、それを今後どのようにしていくかという一つの市の考え方として、さざなみホールが一番新しいということで、お金かけるのも、一番規模も当然ありますけれども、そこを修理する方が、文化もそういうことを残すホールとしての位置づけもありますし、つぎ込むお金のこともありますから、そういうトータルからして市としてはさざなみホールを残すような形でっていう説明を、2回おっしゃいますが、そういう説明を市は別の部署でやっております。

ただ、その話をされたときに、先ほどのこの図面のここで、文化スポーツゾーンというのがあるじゃないですか、とおっしゃったので、そのことを受けて、従前の24年から作ってた計画は、こうこうこういう形で当時はありました。しかしながら、今のその見直しもありますし、駅前全体のこの中で、今の今回の病院のこともあります。そういうことから時間の経過、それから、市民さんのニーズというか、その駅前に求めることについても、絶対変わると私言い切りませんが、やっぱり期間が経つ、それから病院が違ふとこ、まだ決まってませんけど、病院が体育館のところになったときに、そこに空いた土地で今度、何をそこに求めていくかという部分について、再度お話を聞かせていただいて、構想を練り直すという意味合いのことで、説明をさせていただきましたので、何もこう、リクエスト、ないときに…

【市民】

そしたらね、また10年経ちますよ。10年経ってこれなのに。今から考えてね、これから皆さんの意見を聞きますよって、10年経ちますよ。

【赤坂】

それですね、いわゆる全くゼロベースで、さあ皆さん何しましょかではなくてですね。先ほど言いましたように、にぎわいとか税収のお話が出ておりましたので、民間の方から提案をもらおうと。これは市の方として考えております。そういう市の考え方も持った上で、皆さんに提案をして、そこでご意見を聞いて、意見を交わしながらという意味でございますので。全くゼロベースで、過去、それ24年から27年かかって積み上げてますので、全くゼロベースでいくと、基本それと一緒にかかりますので、それではなく、元々いろんな意見聞いてるそのベースがありますので、そのベースの中で、市の考え方を説明した上で、市民さんにそのことの方針についてのご意見をいただくと、そういう意味合いでの見直しという形で進めさせていただきたい。このように考えております。

【小池】

すいません、お時間が押してまいりました。最後に1名、手を挙げられる方。

【市民】

駅前の■■■■です。

野洲駅前にはですね、病院ではなくてですね、商業施設などのにぎわい創出のためのシンボリック、象徴的なものを建設すべきだと、私は考えておりました。

そのことからですね、栢木市長が公約とされて、公約にですね、賛成いたしまして、投票しそして当選されたわけなんです。それは、その後ですね、現病院の現地建て替え断念とかですね、駅前のBブロックへの移設表明とか、いろいろ紆余曲折があったんですが。何も決められない野洲市と、半ばちょっと諦めに近いような気持ちもあったんですが。ここにきて、総合体育館横の旧温水プール跡地にですね、建設予定とこういう話を聞きまして、このことに対して本当に私、賛成しておりますので、ぜひとも推し進めていただきたいと、こういうふうに思います。

ただ、推し進めるにあたってですね、そこに病院ができますとですね、やっぱり高齢者とかのアクセスですね、そのことがちょっと課題になってくると思いますので、そのことを検討いただきまして、対応の方お願いしたいなと思います。

以上です。

【駒井】

ありがとうございます。

まずアクセスについては、非常に重要なことだと思っております。病院の経営に関しても重要でございますが、何よりもこの駅前地域から、実際離れる、これは厳然たる事実でございます。

駅前地域のみならず、全市内各所からも、お車じゃない方のアクセスを担保していく方法、これは実際、計画段階でしっかりと考えていきたいというふうに考えております。確かに財源が少しいるかもわかりませんが、それが極めて軽微で済む方法をすでにいくつか案として持っておりますので、そういったところをしっかりとお示しできるように検討していきたいところでございます。ありがとうございます。

【小池】

はい、ありがとうございました。

本日いただきましたご意見につきましては、今後の病院整備、駅前整備を進めるにあたりまして、参考とさせていただきます。よりよいものとなるように、取り組んでまいります。

それでは最後に閉会にあたりまして、副市長佐野よりご挨拶申し上げます。

【副市長】

本日はありがとうございました。

いろいろ厳しいご意見であるとか、賛同いただくご意見とか、いろいろいただきましたけども、しっかりと受けとめさせていただいて、より良い病院に進めたいと思いますので、今後ともまた引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

本日はありがとうございました。